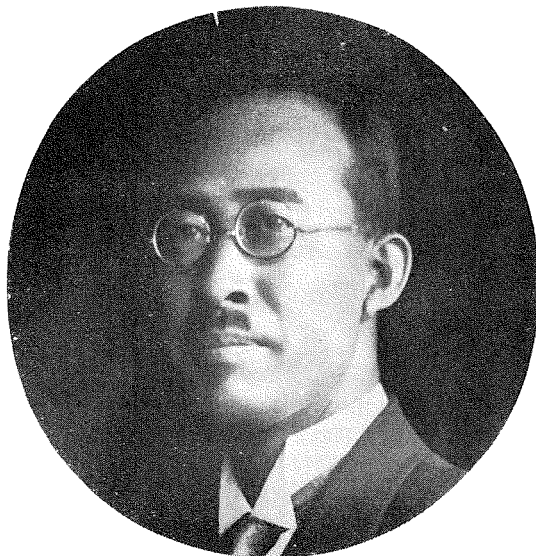


鐵道省工務局長

加賀山學氏

- ◆新進技師の路を拓く爲めにさ云ふ様な意味で鐵道省に大異動が行はれる事になり、第一に閣議で決定されたのが加賀山學氏の工務局長新任でありました。
- ◆加賀山氏は石川縣大野郡の人で前工務局長後藤佐彦氏中村建設局長と同期の三十八年の帝大工科出であります。
- ◆工事さ云ふ立場から加賀山氏を觀るさ面白い人格の所有者であるさ思はれます氏の約二十年の鐵道生活は前半が建設工事で、後半が改良工事であります。
- ◆建設工事は多くの場合未開地へ新線を敷設するもので世間的のトラブルが少い、改良工事は都市の最も複雑した世間的の問題がからんで來るので、工事其ものゝ複雑以外に人間味の雜多のトラブルがあります。
- ◆加賀山氏は能く技術家は尺度の爲めに倒れるものださ云はれます、之は一般に技術家が社會的の理解さ常識に缺けてをる爲めに應々其一身を誤るものがあるさ云ふ意味であります。
- ◆最も之は技術家ばかりではなく一般の傾向で、特に身心練磨さ修養の足りない人が身分不相應に拔擢されるさ應々失敗をするらしいからです。
- ◆加賀山氏は年輩さ云ひ、技術的經驗さ云ひ社會的の理解さ云ひ局長として申分なき適任者であります。而して今後恐らく局長を以て終る人ではないでしやう。
- ◆氏は工事に臨む者に、其成功の秘訣は、齋戒沐浴の心掛であるさ云はれます。信仰的の人らしい、此言をなす處に氏の有望な含蓄があります。
- ◆氏の建設工事生活は關西から九州方面が主でありました。其後の改良工事生活に於て氏の最も人間性の尊い活躍は神戸鐵道局の改良



鐵道省工務局長 加賀山學
Mr. Manabu Kagayama, Newly Appointed as
the Director of Engineering Bureau, I. G. R.

係長當時、大正十二年九月一日の關東大震災に際し、氏は直に帝都救援の一團を組織して自ら數百名の鐵道従業員を引卒し、戰時の様ないでたちて海路東京に乗込み、救護又は應急工事の爲めに縦横の活動をしました、而して帝都の鐵道が何よりも先に一部の復舊をして、數百萬の市民に對し衣食輸送の途を開きました、之は恐らく氏の精力さ機敏なる技術的手腕を最も大膽に發揮した一の奉仕事業であつたでしやう。

◆其後に氏は國府津改良事務所長として鐵道最大の被害地たる熱海線及び箱根以東の東海道線の復舊工事を完成する事になつた、其中に歐米に出張を命ぜられ、鐵道工事視察の傍らロンドンの萬國鐵道會議に列して歸朝後、丹治經三氏の後を襲ふて改良課長さなられました。

◆課長時代の二年間は別に氏に大なる異彩は無つた様であります、我等は氏が工務局長としての今後の健在を祈るさ俱に、我國の鐵道改良工事をして益々意義あらしめ延いては都市改善の爲めの人類政策に寄與せられん事を希望するものであります。